

立花小一郎回顧余録 大正 8 年 10-11 月

※原文は罫紙に毛筆縦書き。本文横の細字書き入れおよび二段書き箇所は、適宜ポイントを落として表現した。

日本人名の註で末尾の#は、竹中憲一編著『人名事典「満州」に渡った一万人』（皓星社、2012 年）に項目があることを示す。

十月一日（遼陽）

晴 水

一、午前六時起床八時ヨリ遼陽衛戍病院（三崎鱗[麟]之助）監獄検閲正午帰連揮毫数十葉三崎院長来訪南岳先生⁽¹⁾ 詩集多冊恵贈領夜随行員ト会食（金奴、数江堀内来リ）
（欄外：藤野）

十月二日（遼陽）

晴 木

一、午前四時起床五時発海城⁽²⁾ ニ向フ八時過着直ニ野砲連隊検閲正午終了午食ノ後守備分遣所検閲五時過発大石橋⁽³⁾ ニ向フ△六時着守備小隊閱兵□□ホテル投宿
（欄外：憲兵分遣所ハ高橋大佐ヲシテ視察セシム（千々和⁽⁴⁾ 立会） △将校集会所ニ一泊）

（欄外：十月三日

晴 金

一、午前六時起床八時ヨリ守備第五大隊（関口大尉代理）検閲将校集会所午食後分遣所（千々和和大尉立会）分院、経[?] 派遣所等検閲午後五時過発熊岳城⁽⁵⁾ ニ向フ）

十月四日（熊岳城）

雨 土

一、午前五時起床六時発同三十八分汽車瓦房店⁽⁶⁾ ニ向フ十時半着直ニ憲兵分遣所（酒井大尉立会）分院、経[?] 派出所検閲正午将校集会所昼食一時半ヨリ守備第六大隊（中頭中佐⁽⁷⁾）午後五時発帰途ニ就ク七時過大連着三岳大佐ニ面会赤塚⁽⁸⁾ 小幡⁽⁹⁾ ニ紹介名刺ヲ与フ十時半旅順着酔臥

十月五日

晴 日

一、午前六時半起床家信及五十君少将⁽¹⁰⁾ 凶報ヲ得各返書富士子⁽¹¹⁾ 宛富安ニ返書午前前田⁽¹²⁾ 及参謀長高級参謀来訪報告鮮人暴動防遏ニ付大臣ヨリ訓示アリ返電ヲ発シ又町野⁽¹³⁾ 斎藤⁽¹⁴⁾ 兩人ニ訓示ス午後杉山稻葉来訪全上事件相談真鍋⁽¹⁵⁾ 来リ九月分俸給受領二百二十引去岡田ヲシテ明日 550 ヲ預金セシム先月食費 28

二、午後六時杉山総長⁽¹⁶⁾ 招宴（寿）ニ列ス松村⁽¹⁷⁾、宮田⁽¹⁸⁾、濱面⁽¹⁹⁾、前田等ナリ酣飲午後九時帰館一浴臥床

（欄外：高野副官病氣ニ付水菓子ヲ贈ル）

十月六日（汽車）

一、午前五時過起床六時半濱面来リ東〔?〕電相談七時発車長春ニ向フ終日留守中ノ新聞ヲ読ミ八時奉天附近ニテ臥床斎藤大佐同所ヨリ搭乘

十月七日（長春）

晴 火

一、午前六時起床七時半長春着名古屋館投宿村上領事⁽²⁰⁾ 寺崎少佐田村大尉等出迎守備隊堵列一時半発哈爾賓ニ向フ筈ノ處ハヨリ来電明朝来着ニ延サンコトヲ求ム仍テ全夜十一時発ニ改ム旅館ニテ終日酔談、夜箱田⁽²¹⁾、柏原⁽²²⁾、稲垣、田中五名ヲ饗ス快談痛十一時搭車北行

十月八日（哈爾賓）

晴 水

一、午前六時起床七時過哈府着石坂⁽²³⁾、福原⁽²⁴⁾ 両少将、五十嵐 南保⁽²⁵⁾、新井⁽²⁶⁾ 三大佐以下将校数十名及ホルワット代理サモイロフ中将⁽²⁷⁾、プレシコフ大将⁽²⁸⁾、張少将（総参謀長）⁽²⁹⁾ 等露支将校数十名及三国軍隊堵列礼迎直ニ名古屋旅館投宿主要者来訪石坂ヨリ最近牒報聴取午食後新井ノ案内ニテホルワット⁽³⁰⁾、プレシコフ、サモイロフ、張等ヲ訪問其他横川沖埋骨所⁵³ⁱ 旅団司令部病院等⁽³¹⁾
二、午後七時ヨリ日露支首要者三十八名ヲ東清鉄道俱樂部ニ饗ス盛饌ナリ（楽隊付）名 30）九時過終了帰途石坂去藤野（よし子）ニ小飲十一時帰臥
（欄外：石坂ノ特務機関公所訪問）

十月九日（哈爾賓）

晴 木

一、午前六時起床七時半ヨリ領事館ニ於ケル監〔簡〕閱點呼場ニ臨席山口中佐⁽³²⁾ 施行官タリ十一時半終了帰館午食後某大尉ノ案内ニテ阜頭公園、哈長橋、銀座通ヲ散歩シ三時帰館小川運平（柳坡）⁽³³⁾ 来訪快談四時二十分大井中将⁽³⁴⁾ ヲ停車場ニ迎フ共ニ特務公所ニ至リ閑談
（欄外：會スル者百五六十名也）
二、午後五時半北満ホテル官民歡迎會ニ臨ム大井予主賓タリ會スル者百十名近来ノ盛會ト云フ七時半大井等ト共ニ再名古屋館ニ至リ小食九時発長春ニ向フ
（欄外：来送者来迎ノ時ニ同シゴンドッチ將軍⁽³⁵⁾ ヲ加フ）

十月十日（長春）

曇 金

一、午前六時起床七時四十分長春着直ニ名古屋館ニ至リ朝食九時発吉林ニ向フ三本技師案内午後一時半着林森田総領事⁽³⁶⁾ 斎藤大佐児玉民長張参謀長其他督軍省長代理（国慶日ニ付 宴会ニ付代理）楽隊軍隊堵列来迎フ直ニ斎藤宅ニ入ル
二、浴後少眠夜斎藤ノ饗ヲ受ク森田高橋三名ナリ十時酔臥
（欄外：被叙従三位）

十月十一日（吉林）

曇 土

一、午前六時起床八時ヨリ領事館ニ於テ點呼ヲ行フ會スル者約四十名十一時半終リ撮影ノ後鮑貴卿（督軍）⁽³⁷⁾ヲ訪フ齋藤去就ノ件鮮人暴動防遏ノ件決定正午共ニ郭宗熙公署（省長）⁽³⁸⁾ニ至リ当人ヨリノ饗ヲ受ク二時半終リ鮑ト同乗北山ニ登リ吉林附近地形ヲ觀察ス四時前帰宅

二、午後六時鮑〔鮑〕郭來訪答礼要談七時日支佛ロヲ総領事館ニ饗ス約四十名（支那料理一名八円）八時半終了名古屋館ニ投宿又此所ニ在留官民ノ招宴アリ十時過困臥（岡江）

十月十二日（吉林）

雨 日

一、午前六時起床九時四十分發長春ニ向フ督軍省長以下來送ルコト來時ノ如シ一時半長春着名古屋館ニ歸ル午後箱田ノ案内ニテ八千代館ニ於ケル長春官民歡迎會ニ列ス會スル者約四十名九時過歸ル柏原ニ拉セラレ再開花樓ニ至リ杉山以下來會十一時歸臥（光吉田）

（欄外：千代、奴、千代香、千代鶴）

十月十三日（長春）

晴 月

一、午前六時半起床九時前ヨリ乘馬兵站司令部、支庫及寛城子守備隊兩中隊視察正午歸館鈴木キ兵大尉許斐主計⁽³⁹⁾石丸弘次満日記者來訪

二、午後六時陶道尹⁽⁴⁰⁾ノ招ニ應シ公署ニ至リ饗ヲ受ク山口中佐田村寛大尉及隨員一同陪席午後九時歸館寒甚（光）

十月十四日（長春）

曇 火

一、午前五時起床七時發鉄嶺ニ向フ山口中佐以下來送午後二時頃着鉄尾藤中將⁽⁴¹⁾、権太、小倉、早間等來迎フ松花旅館ニ投シ午後四時ヨリ守備隊演習陣地視察五時歸館
二、権太、小倉、早間、松岡ノ案内ニテ鉄ホニ夕食ス醉余揮毫十一時歸臥 千

十月十五日（鉄嶺）

雨 水

一、午前四時起床五時前ヨリ曉戰視察講評分列ノ後歸館朝食時ニ九時ナリ午後揮毫數十葉ニ及フ夜會食

十月十六日（鉄嶺）

晴 木

一、午前六時起床九時二十分發乱石山ニ下車石山子三家子間攻守戰ヲ視察シ梨本殿下⁽⁴²⁾ト會合決戰ノ際午後四時十七分發鉄嶺ニ歸ス吳借及副官ト會ス中村參謀⁽⁴³⁾同道

（欄外：杉山総長來セリ途中尾藤杉山ト同車）

十月十七日（鉄嶺）

晴 金

一、午前六時起床遼東新報ニ詩書ヲ与フ正午憲兵曹長以下ヲ隨ヘ（高嶋⁽⁴⁴⁾ 杉本⁽⁴⁵⁾）

ハ昨日ヨリ演習隊ニ残シ置ケリ) 蘇家台[屯]⁽⁴⁶⁾ニ至リ旅団ノ仮設敵演習視察午後六時半寒風ニ苦シミ帰館

十月十八日(鉄嶺) 雨 土

一、午前四時ヨリ戦果ヲ見ント期ス寒冒頭痛起出ツル能ハス依テ参謀副官ヲ遣ハシ終日枕臥八時過高岡病院長⁽⁴⁷⁾来診大事ナキヲ知ル湿布、服薬午後六時半出発帰途

十月十九日(三十里堡) 晴 日

一、午前六時瓦房店辺ニテ起床頭痛稍軽シ汽車後レ(一時間十五分)辛クシテ旅順二番車ニ接続十時半過着順高嶋笠原⁽⁴⁸⁾等来迎フ直ニ帰家静養相生⁽⁴⁹⁾ヨリ落成式ニ招宴アリ之ヲ辞ス

(欄外:高嶋副官ヨリ叙位ノ辞令ヲ受領)

十月廿日 晴 月

一、午前六時起床風邪頗快軽然レトモ再発ヲ恐レ本日在宅静養軍医部長⁽⁵⁰⁾来診参謀長来告鈴木少佐軍司令部附(美通、奉天駐在ノ筈)⁽⁵¹⁾来告、大坂竹尾、群馬、對島其他各方面ヘ信書ヲ発ス寺内伯⁽⁵²⁾明石大将⁽⁵³⁾病氣ニ付再電見舞

(欄外:金谷少将⁽⁵⁴⁾高田大佐⁽⁵⁵⁾名刺転付)

十月廿壹日 晴 火

一、午前六時半起床十時過出勤留守中諸書類点検四時前帰宅寺内伯危篤ノ電報寿一大佐⁽⁵⁶⁾ヨリ明石病重ノ報末松ヨリ来ル

十月廿二日 晴 水

一、午前七時起床風邪軽快杉本ヨリ哈府出張手当 360 受領十時出勤寺内伯薨去ノ事新聞ニ在リ副官ノ言ニ随ヒ弔電ヲ発ス神田経理部長不日待命ノ内命アリ之ヲ伝達セシム
(欄外:400ノ処 40 常旅費ニ加入田中通商局長⁽⁵⁷⁾来順ニ付黒崎事務官⁽⁵⁸⁾ヨリ「ホテル」ニ招待アリ)

十月廿三日(皇靈祭) 晴 木

一、午前七時起床神田主計監⁽⁵⁹⁾来訪満鉄入社之件依頼并ニ名誉進級ノ事内願参謀長ト相談ノ上大臣ニ電報セシム

二、午前十時半ヨリ白玉山招魂祭ニ参拝ス「宮殿下風邪南函嶺ヨリ御帰遼熱度 39.7 ト云フ報アリ山口軍医監⁽⁶⁰⁾及高嶋副ヲ今夜發御見舞ニ差遣ス寺内伯蘇生ノ報アリ祝電ス

(欄外:「此記事翌日ノ事ニ係ル訂正ス上奏書ヲ訂正ス)

十月廿四日

晴 金

一、午前七時起床午前十時出勤鴨緑江沿岸ニ軍隊行軍セシムル件参謀意見ニ同意計画セシム吉林斎藤大佐来訪前田大佐ト共ニ沿岸防禦配置ヲ議セシム、各處ヨリ依頼ノ揮毫ヲ試ム十数葉ニ及フ

十月廿五日

晴 土

一、午前七時起床参謀長ヲ派遣シ独守隊幹部演習ヲ視察セシム吉村副官同道本夜発此夜各部長幕僚ヲ寿亭ニ饗ス九時過帰宅俸給 902 ノ内 636 ヲ受領、300 預金 4000 トナル尚出京ニ付機費 600 ヲ受領杉本へ渡ス、献上鶉 1200 ノ件柴田ニ細事

二、遼東新報祝典臨席断リ高嶋不在ニ付中村参謀赴連訓示案（高橋氏起稿）ヲ訂正シ高橋ニ交附ス

（欄外：種子田少佐⁽⁶¹⁾ 浦塩要塞視察ノ件笠原参謀擬工事ノ件午後一時ヨリ講話廿五日ヨリ軍医部長地方巡回出發）

十月廿六日

晴 日

一、午前七時過起床宮田中將前田大佐来訪高嶋副官遼陽ヨリ帰り復命（殿下御經過御良好）今日尚残余ノ揮毫ヲ試ム十葉許十時臥床

二、明石總督去ル廿四日薨去ノ報ニ接シ弔電ヲ發ス

十月廿七日（発）

晴 月

一、午前五時過起床六時半出ツ七時発上京ノ途上ニ上ル高橋高島神田堀田⁽⁶²⁾ 等来送ル、大連ニ而野村中西⁽⁶³⁾ ト会見、軍司令部、倉庫等移転ノ件及神田ヲ囑託ニスル件相談

二、午後七時遼陽ニテ櫻井少佐⁽⁶⁴⁾ ヨリ殿下ノ御病況聴取九時奉天着少憩十時發安東ニ向フ熊岳城ヨリ尾藤濱面其他同車橋頭ニ至ル

十月廿八日（安東縣）

晴 火

一、午前七時過起床（安東）森井、憲兵隊長等来迎フ会見ス午後一時半平壤通過小川中佐⁽⁶⁵⁾ ・ ・ 警視ニ会見沙里院ニ而児島中將⁽⁶⁶⁾ ト会ス（卅日安東会ニ出席ノ途ナリ児島、濱面、大野、前田、斎藤、町野、医ム局員等ノ會）

二、午後七時頃龍山着、大和、大村、松下、小城、後藤、中原、貝能 寿富士玄洞蛇目其他諸氏ト會ス

十月廿九日（釜山）

晴 水

一、午前五時半起床釜山着倉橋、岡村、赤澤、運輸支部長某砲少佐本田府尹等来迎フ直ニ弘濟ニ搭乗朝食ヲ廢シ臥床午時起床海波如席喫飯入浴仏飛行家フツル大佐中村中佐ト會談午後五時過船下関ニ着ス亜米[利]加丸四時出帆関口ニテ行會フ亜丸ハ明石ノ遺骸ヲ載セテ台湾ニ向フナリ無線電線ニテ弔詞ヲ送ル檢疫ノ為メ十二時間上陸ヲ禁

セラレ此夜空シク湾内ニ停船

十月卅日（下関）

晴細雨 木

一、午前六時起床七時上陸山陽ホテル小憩新聞記者七八名ニ抱囲セラレ大ニ閉口ス九時半急行ニテ東京ニ向フ細雨寒シ馬関駅長ノ厚意ニ據特別室（70）ニ入り雑踏ヲ避クヲ得タリ岡山ニテ臥床

十月卅一日（名古屋）天長節

細雨 金

一、午前七時頃名古屋辺ニテ起床車中祝酒ヲ挙げ窓ニ聖寿万歳ヲ視ル午前十時半国府津ニテ杉本副官ニ分レ十二時前大磯ニ至ル直ニ寺内伯ノ居ヲ訪フ沢子兒玉伯夫人⁽⁶⁷⁾ 恕忠中將⁽⁶⁸⁾ ニ面会一時廿一分東京ニ向ヒ四時半代々木ニ着ス⁽⁶⁹⁾ 陸軍省ノ準備参賀観兵式御宴等△皆拝辞△外務大臣宴

（欄外：石塚英蔵⁽⁷⁰⁾ ト同座同車）

十一月一日（東京）

晴 土

一、午前六時半起床八時理髪九時薄田精一來訪十時杉本迎來ル十時半参内内山武官長⁽⁷¹⁾ ニ謁ス十一時過由比青島軍司令官⁽⁷²⁾ ニ次キ上奏次テ皇后陛下御機嫌伺三縁亭午食

二、一時頃ヨリ東宮、北白川、笛、朝香、東久邇、李王世子、梨本、久邇、淳 宮等各宮家伺、河村⁽⁷³⁾、奥⁽⁷⁴⁾、長谷川⁽⁷⁵⁾ 各元帥訪問（由比同道）四時帰ル

（欄外：午後四時南満理事川上俊彦⁽⁷⁶⁾ 龍居頼三來訪自動車供給ノコト夜伊沢⁽⁷⁷⁾ 來訪柴田午後二時着杉本ト共ニ鶉ノ献上ヲ畢ル兩陛下各二百五十東宮同数大臣総長各百）

十一月二日（東京）

晴 日

柴田杉本來訪

一、午前七時起床午前在家静養午後芝青松寺明石追悼会ニ出席帰途閑院⁽⁷⁸⁾、伏見兩宮伺候山県元帥⁽⁷⁹⁾ 山梨中將⁽⁸⁰⁾ 訪問帰宅午後五時ヨリ□□石塚招宴林、古賀廉造⁽⁸¹⁾ 同處十時帰臥

（欄外：此朝馨⁽⁸²⁾ ニ説諭）

十一月三日（東京）

晴 月

一、午前六時半起床八時ヨリ腕車大臣邸⁽⁸³⁾ ニ至リ大臣ト面晤畢テ参謀本部ニ至リ次長総長⁽⁸⁴⁾ ト懇話午後山梨大谷⁽⁸⁵⁾ ト會見帰宅此日大山元帥除幕式アリ瀧元次郎中佐山形閑少將⁽⁸⁶⁾ 來訪、大阪杉本又三郎⁽⁸⁷⁾ 來訪上阪ノ際宿舍ノ件夜大伴ヨリ電話寺内伯薨去同夜帰邸ノ報アリ九時参邸十二時帰宅

（欄外：瀧ヨリ菓子杉本ヨリ笹雪、蒲鋒[鋒]）

十一月四日（東京）

雨 火

一、午前八時過起床午前在宅日記等ヲ整理ス午後笠原杉本來訪山崎夫人ヨリ千葉名鯛

栗漬一函到来

○此夜寺内元帥ノ靈柩ニ通夜シ翌午前七時帰家

十一月五日（東京）

雨又曇 水

一、午前七時起床前田下学⁽⁸⁸⁾ 来訪（菓子到来）午後一時ヨリ明石家ヲ訪ヒ病床母堂ト對話又靈位ヲ拝ミ杏雲堂ニ伊沢辰雄ノ病ヲ訪フ頗ル危険状態ニ在リ母堂三屋〔?〕濱子徳子□□人等ニ逢フ夫ヨリ曾我子ヲ訪ヒ⁽⁸⁹⁾ 須田ニ會食多喜男⁽⁹⁰⁾ 同坐九時帰臥（欄外：庄司砲大佐来訪薄田ノ事相談アリ）

十一月六日（東京）

晴 木

一、午前七時過起床薄田来訪秋山大将⁽⁹¹⁾ 来談（昨日大谷大将来訪）岡本功夫人来訪（佃煮其他到来）北白川宮ヨリ菊章金釧及酒肴料 25 下賜夜福田山梨ノ招宴（三島ヤ）ニ列ス大島⁽⁹²⁾、由比、秋山雅⁽⁹³⁾、本多熊⁽⁹⁴⁾、菊池慎⁽⁹⁵⁾、武藤⁽⁹⁶⁾ 等ナリ

十一月七日（東京）

晴 金

一、午前七時起床大田黒大佐⁽⁹⁷⁾ 来訪（忠告ス）正午礼装寺内元帥ノ棺側ヲ勤メ午後四時帰宅、午前山形少将ヲ訪フ（欄外：芝田来訪荷物ヲ託ス、今夜八時半発帰ル）

十一月八日（東京）

晴 土

一、午前七時起床九時ヨリ北白川宮⁽⁹⁸⁾ へ賜品禮訪紀念トシテ腕巻金時計ヲ購フ 51 ナリ午後七時中央駅発京都ニ向フ（欄外：徳富⁽⁹⁹⁾ ヨリ日本史織田後篇ヲ送リ来ル）

十一月九日（京都）

晴 日

一、午前七時京都着直ニ下鴨ニ至ル母堂富士及大内姉君ヨリ朝食及午餐ノ饗ヲ受ク光栄氏及辰巳中佐參會母堂富士ト家庭談ヲ為ス午後伊澤ヲ訪ヒ小高親夫婦ノ歡迎アリ夜信三郎⁽¹⁰⁰⁾ 翌朝三屋归来（欄外：堀貞⁽¹⁰¹⁾ ト電話交換）

十一月十日（京都）

晴 月

一、午前七時起床八時半京都発須磨ニ向フ由比菊池両氏ト同車○時九分須磨着肥田程三郎邸ニ入ル午後三時過陛下ノ御着ヲ迎へ奉ル大本營、皇太子（住友邸）⁽¹⁰²⁾ 伏見閑院殿下ニ伺候帰宅兵庫内務部長、住友男、林大阪知事⁽¹⁰³⁾ 来訪（欄外：元帥以下訪問廃止ノ事ニ〔付〕相談ス）

十一月十一日（須磨）

晴 火（稲日太郎媛陵）

一、午前七時起床十時 25 宮廷列車ニテ陪乗加古川 11.15 着腕車日岡御野立所ニ至ル觀戰

多木中尉ノ講話後三時 25 発四、一五分須磨着此夜森本氏邸ノ仁田原⁽¹⁰⁴⁾ヲ訪ヒ翌午前 1,5 归来

(欄外：内山武官長由比及余ニ献品ノ内談アリ)

十一月十二日 (須磨) 雨 水

一、午前五時起床六時 50 発七時 10 明石着西端ニテ観戦、鳩ノ説明ヲ聞ク午前九時 45 明石発十時 05 帰着仁田原肥田ト須磨寺参詣宝物展覽住職ハ肥田妻ノ叔父ナリト云フ (青葉笛等ヲ観ル)

(欄外：此夜仁田原来飲共ニ揮毫)

十一月十三日 (須磨) 曇又晴 木

一、午前五時起床六時 55 発七時 35 西宮着腕車廣田山上ニ至ル観戦ノ後十時 15 西宮発十時 55 帰着此日杉本又三郎来訪不在不逢

十一月十四日 (須磨) 晴 金

一、午前四時起床五時 40 発六時 45 伊丹着腕車大臣ト共ニ待兼山ニ至リ陪観午後二時 45 電車伊丹発三時 55 大阪着腕車ニテ偕行社ニ至リ上原総長ノ饗ヲ受ク七時過梅田発九時頃須磨帰宅

(欄外：此時鴨三羽清酒半打ノ恩賜アリ)

十一月十五日 (須磨) 曇又晴 土

一、午前五時起床六時 50 発七時 55 大坂着杉本氏ノ自動車ニテ練兵場ニ至リ観兵式陪観十一時愛馬傍ニテ観馬昼食二時半天王寺公園御饗宴所ニテ賜饗賜天杯四時半頃京都御還幸ヲ梅田へ奉送後大阪城ニ御礼、後仁田原花外楼ニ至ル林池上等ノ招待ナリ町田⁽¹⁰⁵⁾、村岡⁽¹⁰⁶⁾ 仁田原、宇都宮⁽¹⁰⁷⁾、小林、斎藤、執行等参列、十時笠原杉本□在リ杉本邸ニ至ル海老名陪席宴送

十一月十六日 (大坂 [阪]) 晴 日

一、午前七時起床十時半北白川宮へ伺候直ニ梅田ニ至リ十一時五十分発別府ニ向フ茶谷杉本酒井海老名坂児山宮里法官部長等⁽¹⁰⁸⁾ 来送吉岡松井兩大佐谷少佐渡大尉等同車姫路岡山ニテ林少将⁽¹⁰⁹⁾ 大佐ト分ル後臥床

十一月十七日 (門司) 晴雨 月

一、午前五時半頃関着直門司ニ渡リ七時頃発ノ汽車ニ上ル十一時頃別府着日那古ニ搭宿浴食後自動車ニテ血池地獄ノ陸軍転地療養所 (国ノ井ニ閑院殿下伺候) 等ヲ游覧四時過発中津ニ至リ松風軒ニ投シ松川大将⁽¹¹⁰⁾ ト會ス夜會飲

(欄外：山田宇吉⁽¹¹¹⁾ 来リ送り洋酒数本ヲ送ル)

十一月十八日（中津）

雨 火

一、午前四時半起床五時半頃発汽車耶馬溪ニ向フ九時柳坂着是ヨリ二馬車分乗深耶馬溪ヲ縦覧ス景大ニ前者ニ勝ル六里行程六時ヲ費シ午後二時半森町着玖珠郡役所ニ息フ三時発豆田ニ向フ七時五分着七里行程四時間ニ過キス松栄館ニ宿ス五岳上人ノ古地ナリ数詩ヲ得タリ

（欄外：来島藩一万三千石）

十一月十九日（日田郡豆田）

晴 水

一、午前七時起床九時筑後軌道ニテ発郡長出来来送ル午後一時頃久留米着ス閑院宮及統監部訪問一時半殿下御着ヲ迎ヘ日吉町国武氏別邸ニ着ス水門吉明渡辺保治古賀治人三大佐菊池中将、渡辺五郎慎三郎〔もしくは慎次郎〕三男小田原佐治三井郡北野村檜山彦六少将沢内院長山田四郎知事安河内麻吉⁽¹¹²⁾ 警務部長斎藤行三⁽¹¹³⁾ 理事官石田勇次長石津和風等来訪夜知事ノ案内九嘉楼ニ飲ム

（欄外：日田ハ天領十八万石金口アリト云フ、国武克巳父嘉次郎兄金太郎）

十一月二十日（久留米）

曇 木

一、午前四時起床五時発自動車（殿下ノ預備車土屋哲〔?〕）松川大将ト同乗殿下御宿ニ到リ共ニ鳥栖西端ニ至リ観戦（川村元帥統監タリ）両軍衝突後西軍石橋ニ退キ東軍之ヲ逐フ十一時過豆津橋ヲ経テ帰還後梅林寺訪問和尚ト談夜宮様来城伊藤某渡辺五郎山梨中将来訪揮毫

（欄外：西軍 18D⁽¹¹⁴⁾ 高山⁽¹¹⁵⁾ 東軍 6D（小池）⁽¹¹⁶⁾）

十一月廿一日（久留米）

晴 金

一、午前七時起床理髪後九時半発鳥栖ヨリ甘木附近ニ至リ追撃戦ヲ視午後三時過帰還渡辺夫人小田原佐吉伊藤等来訪

十一月廿二日（久留米）

晴 土

一、午前三時半起床行李整頓家人ニ告別五時発筑後川左岸田主丸ヨリ甘木ニ至リ観戦八時終了現地閱兵ニ扈随十一時ヨリ甘木中学ニテ講評次ニ宴會午後一時半発久留米着二時半発馬関ニ向フ六時前着山陽ホテル夕食七時半発東京ニ向フ殿下井口⁽¹¹⁷⁾ 福田同行

十一月廿三日（汽車中姫路）秋季皇霊祭 晴 日

一、午前七時起床徳川頼倫侯⁽¹¹⁸⁾ 松本博士呉博士等ト雑談後井口大将二室ニ移ル原口大佐在リ午後八時半東京着馨及渡辺夫婦⁽¹¹⁹⁾ 出迎フ杉本ト別レ自動車（満鉄持）帰宅浴食臥床

（欄外：昨夜福田白仁⁽¹²⁰⁾ ト雑談）

十一月廿四日（代々木） 雨 月

一、午前六時半起床五大洲社長我妻懋杉本中尉来訪十時ヨリ自動車梨本宮⁽¹²¹⁾（廿二日御帰京）及陸軍大臣ヲ訪問正午帰宅夜豊永貢来

十一月廿五日（代々木） 曇 火

一、午前七時起床数日来日記整理諸方ニ礼端書ヲ出ス大田黒大佐来訪書画幅ヲ整理ス島川⁽¹²²⁾、宇都宮、大井、由比大將ニ昇進久邇⁽¹²³⁾ 梨本両宮大庭⁽¹²⁴⁾ 中將軍参議官菊池 3D、内野⁽¹²⁵⁾ 7D、市川⁽¹²⁶⁾ 15D、藤井⁽¹²⁷⁾ GD ト成ル島川待命村岡其後任

二、午後四時明石未亡人ヲ訪ヒ時余緩談毛涙辞歸時既ニ七時
（欄外：前田下学山田宇吉来訪菓物一籃、菊地後任尾野⁽¹²⁸⁾ 中将ナリ）

十一月廿六日（代々木） 晴 水

一、午前七時起床大井、市川、内野、藤井諸氏ニ祝電宇都宮由比菊池等ニ祝書午後六時大臣招宴ニ赴ク元帥参議官等列坐柴大將⁽¹²⁹⁾ 主賓タリ

（欄外：陸軍大学卒業式）

十一月廿七日（代々木） 晴 木

一、午前七時起床杉本来横須賀行岡本功来訪午後六時新喜樂中西招宴江列ス帰途同氏及杉山ト赤阪瓢屋再飲 12 時帰

（欄外：田村羊三⁽¹³⁰⁾ ニ（満鉄）會ス）

十一月廿八日（代々木） 晴 金

一、午前七時起床九時過梨本宮伺候（一昨日大磯）大臣邸（不在）参謀本部総長次長ト懇談昼食後山梨菅野⁽¹³¹⁾ 田中政⁽¹³²⁾ ト會談、夜山口勝及偕行社入会臨席（柴大將送別）十時帰臥

（欄外：蕃子来訪）

十一月廿九日（代々木） 晴 土

一、午前七時起床九時大臣邸ニ至ル砲兵学校卒業式不在参内拝謁勅語ヲ賜フ渡辺大尉来訪午四時大臣ヲ再訪用談夜杉山ノ招宴瓢屋ニ飲ム中西阿久津同坐中村是公⁽¹³³⁾ ト邂逅

（欄外：末松俊造⁽¹³⁴⁾ 及中島中佐守正王代理訪問）

十一月卅日（代々木） 晴 日

一、午前六時起床八時前家ヲ出テ八時半特急ニテ下関ニ向フ大田黒中島杉口坂本前田下学来送ル支那武官ト同車午後七時京都富士三原大阪石坂杉本来送ル臥床

註

- (1) 儒学者藤沢南岳（1842～1920）を指す。立花は南岳に師事して漢詩を学んでいた。
- (2) 遼陽と大石橋の間にある南満州鉄道の駅名。
- (3) 南満州鉄道の営口支線の分岐駅。関東軍独立守備歩兵大隊のひとつが駐留していた。
- (4) 千々和種助憲兵大尉・関東憲兵隊遼陽憲兵分隊長。
- (5) 大連と大石橋の間にある南満州鉄道の駅名。
- (6) 南満州鉄道の駅名。関東軍独立守備歩兵大隊のひとつが駐留していた。
- (7) 中頭新左衛門陸軍歩兵中佐。瓦房店駐在の独立守備歩兵第六大隊長。
- (8) 赤塚正助（1872～1942）奉天総領事。
- (9) 小幡西吉（1873～1947）駐華特命全権公使。
- (10) 五十君弘太郎陸軍少将（陸士 8 期、1917 年予備役編入）。
- (11) 立花の娘。1893 年生まれ。京都の鴨脚光弘に嫁していた。
- (12) 前田昇陸軍憲兵大佐・朝鮮駐劄憲兵隊司令部附か。
- (13) 町野武馬（1875～1968）陸軍歩兵中佐、奉天督軍軍事顧問。
- (14) 斎藤恒（1877～1953）陸軍歩兵大佐、吉林督軍軍事顧問、吉林特務機関長。
- (15) 真鍋實二等主計・関東軍副官部附。
- (16) 杉山四五郎（1870～1928）関東庁事務総長。
- (17) 松村龍雄（1868～1932）海軍中将・旅順要港部司令官。
- (18) 宮田為之陸軍中将・旅順要塞司令官。
- (19) 濱面又助（1873～1944）陸軍少将・関東軍参謀長。
- (20) 村上義温（1889～1954）長春領事。
- (21) 箱田琢磨（1867～？）北満日報社長 # か。
- (22) 柏原孝久（1878～？）遼東新聞長春支局長 # か。
- (23) 石坂善次郎（1871～1954）陸軍少将・ハルビン特務機関長。
- (24) 福原佳也（1874～1952）陸軍少将・歩兵第 19 旅団長。
- (25) 南保貞次陸軍歩兵大佐・歩兵第 31 連隊長。
- (26) 新井亀太郎（1875～1832）陸軍歩兵大佐・ウラジオ派遣軍第 4 兵站司令官。
- (27) ミハイル・コンスタンチノヴィチ・サモイロフ（1868～1940）陸軍中将・中東鉄道警備隊長。
- (28) ミハイル・ミハイロヴィチ・プレシコフ（1856～1927）陸軍大将。中東鉄道収用地の治安維持全権を委任されていた。
- (29) 張煥相（1882～1962）中東鐵路護路軍総参謀長。日本陸軍士官学校への留学経験を有する（清国留学 8 期生）。
- (30) ドミトリー・レオニードヴィチ・ホルヴァート（1858～1937）陸軍中将。1902 年以来中東鉄道管理局長職にあり、鉄道運行およびその収用地行政を統轄していた。
- (31) i は歩兵（連隊）の略。すなわちここは歩兵第 53 連隊、および（その所属する歩兵第 19）旅団司令部ということ。
- (32) 山口啓太郎陸軍歩兵少佐・関東軍独立守備歩兵第 5 大隊長（大石橋駐留）。
- (33) 1877 年生、1935 年没。玄洋社・浪人会のメンバー。『満蒙と山東：対支政策の結論』（1916 年）

などの著書がある。

- (34) 大井成元（1863～1951）陸軍中将。シベリア出兵当初から第12師団長として出征、1919年8月からウラジオ派遣軍司令官。
- (35) ニコライ・リヴォヴィチ・ゴンダッチ（1860～1946）。1911年から沿アムール総督を務めていたが、二月革命によって退任した後、ハルビンに住んでいた。
- (36) 森田寛蔵（1876～？）長春領事#。
- (37) 1867年生、1934年没。奉天派の軍人。1919年7月、吉林督軍に任命。
- (38) 1878年生、1934年没。清の進士。法政大学に留学。北京政府、奉天派の政治家。
- (39) 許斐末蔵関東軍独立守備歩兵第1大隊（公主嶺）一等主計。
- (40) 陶彬吉長道尹。浙江省紹興県人。
- (41) 尾藤知勝陸軍中将・関東軍独立守備隊司令官。
- (42) 梨本宮守正王（1874～1951）。陸軍中将・第16師団長として満州に派遣されていた。
- (43) 中村音吉陸軍歩兵大尉・関東軍司令部参謀。
- (44) 高島彌之助陸軍歩兵中佐・関東軍司令部副官。
- (45) 杉本理太郎陸軍中尉・関東軍司令部副官。
- (46) 奉天の近郊。安奉線および撫順支線への分岐駅があった。
- (47) 高岡栄二等軍医正・鉄嶺衛戍病院長。
- (48) 笠原盾雄陸軍歩兵大尉・関東軍司令部参謀。
- (49) 相生由太郎（1867～1930）。福岡県出身、東京高商卒。三井鉱山、三井物産を経て1907年に大塚新太郎満鉄理事の招きで渡満。1909年に満鉄を退社後、大連に福昌公司を設立して広く実業に携わり、大連経済界に重きをなした#。
- (50) 岩田一軍医監・関東軍軍医部長。
- (51) 鈴木美通（1882～1956）陸軍歩兵少佐・関東軍司令部附#。
- (52) 寺内正毅（1852～1919）陸軍大将、元韓国総監、前首相。
- (53) 明石元二郎（1864～1919）陸軍大将・台湾総督。
- (54) 金谷範三（1873～1933）陸軍少将・参謀本部第1部長。
- (55) 高田豊樹（1875～1964）陸軍歩兵大佐・参謀本部支那課長。
- (56) 寺内寿一（1880～1946）陸軍大佐・近衛師団歩兵第3連隊長。寺内正毅の長男。
- (57) 田中都吉（1877～1961）外務省通商局長。
- (58) 黒崎真也（1878～1959）。東京帝大法卒。1913年より関東都督府に勤務。1920年3月退官して大連取引所長となる。1924年7月内務省に復帰し樺太庁内務部長、滋賀県知事などを歴任。
- (59) 神田菊次郎主計監、関東軍経理部長。
- (60) 山口弘夫軍医監。
- (61) 種田年足陸軍砲兵少佐・関東軍兵器部長。
- (62) 堀田勇次二等獣医正・関東軍獣医部長。
- (63) 野村龍太郎（1859～1943）南満州鉄道（株）社長、中西清一（1874～1927）同社副社長であろう。中西はこの後11月27日条、同29日条にも見える。
- (64) 櫻井忠温陸軍歩兵少佐・第16師団司令部副官。

- (65) 小河市之丞憲兵中佐・平壤憲兵隊長。
- (66) 児島惣次郎（1870～1922）陸軍中將・朝鮮駐劄憲兵隊司令官。
- (67) 寺内正毅の娘、サワは児玉源太郎の長男秀雄（1876～1947）に嫁した。
- (68) 児玉恕忠（1849～1923）。1907年、陸軍中將進級と同時に後備役編入。
- (69) 立花の留守宅は代々木にあった。
- (70) 1866年生、1942年没。東京帝大法卒。台湾総督府、関東都督府などを経て、1916年から東洋拓殖会社総裁を務めていた。
- (71) 内山小二郎（1859～1945）陸軍大将・侍従武官長。
- (72) 由比光衛（1860～1925）陸軍中將・青島守備軍司令官。この月大將に進級する。
- (73) 川村景明（1850～1926）元帥。
- (74) 奥保鞏（1847～1930）元帥。
- (75) 長谷川好道（1850～1924）元帥。1916年10月から1919年8月まで朝鮮総督。
- (76) 1862年生、1935年没。外務省ウラジオストク貿易事務官、ハルビン総領事などを経て1913年より満鉄理事を務める。
- (77) 伊沢多喜男（1869～1969）。立花の妻カン（日記中は寛子）は姉である。
- (78) 閑院宮載仁親王（1865～1945）陸軍大将・軍事参議官。
- (79) 山縣有朋（1838～1922）公爵、陸軍元帥。
- (80) 山梨半造（1864～1944）陸軍中將・陸軍次官。
- (81) 1858年生、1942年没。大審院判事、内務省警保局長などを歴任するが、中華民国紙幣偽造事件により訴追される。1914年控訴審で無罪判決を得、1918年拓殖局長官に就いていた。
- (82) 立花馨（1897～1980）は、立花小一郎の弟銑三郎（1867～1901）の子で、小一郎が養子としていた。
- (83) 当時の陸相は田中義一（1864～1929）陸軍中將。
- (84) 当時の参謀次長は福田雅太郎（1866～1932）陸軍中將、参謀総長は上原勇作（1856～1933）陸軍大将。
- (85) 大谷喜久蔵（1855～1924）陸軍大将・教育総監兼軍事参議官。大谷は、シベリア出兵当初ウラジオ派遣軍司令官を務め、この年8月に大井成元と交代して帰国した。
- (86) 憲兵大佐から1917年陸軍少將に進級。朝鮮で高等警察課長として勤務時、朝鮮駐劄憲兵隊司令官兼朝鮮総督府警務総長だった立花と知り合ったとみられる。前出・李炯植論文、p. 153を参照。
- (87) 1865年生、1940年没。大阪の鮮魚商、実業家。1923年から大阪府会議長を2期務めた。
- (88) 1859年生、1933年没。熊本県の自由民権活動家前田案山子の子。資産家で中国革命を援助したという。
- (89) 曾我祐準（1844～1935, 1888年予備役編入）陸軍中將、またはその同族者とみられる。立花の弟銑三郎は、彼の三女遼子（1876～1897）を妻に迎え、その夭折後、姉の満子（1874～1933）を妻に迎えた。
- (90) 注（77）を参照。
- (91) 秋山好古（1859～1930）陸軍大将・軍事参議官。
- (92) 大島健一（1858～1947）陸軍中將。寺内内閣で陸相を務め、1918年10月青島守備軍司令官

に転じた後、1919 年 6 月予備役編入された。

- (93) 秋山雅之介（1866 ～ 1937）青島守備軍民政長官。帝国大学法科卒。外務省勤務を経て 1912 年朝鮮総督府参事官となり、長く朝鮮行政に携わった。
- (94) 陸軍将官に該当者見当たらず。1909 年から在清国公使館一等書記官、1912 年から 1914 年までハルビン総領事を務め、当時はヴェルサイユ講和使節団員だった本多熊太郎（1874 ～ 1948）か？
- (95) 菊池慎之助（1866 ～ 1927）陸軍中将・教育総監部本部長。
- (96) 武藤信義（1868 ～ 1933）陸軍中将・参謀本部総務部長。
- (97) 大田黒龍亮。陸大 16 期卒、騎兵科の陸軍将校。最終階級は少将。
- (98) 北白川宮成久王（1887 ～ 1923）。1915 年陸軍大学校卒（砲兵科）。
- (99) 徳富蘇峰（1863 ～ 1957）。
- (100) 伊沢信三郎は、伊沢多喜男の兄。京都の実業家だった。『伊澤修二選集』（信濃教育会、1958 年）p.1092 掲載の系図参照。
- (101) 1872 年生、1927 年没。帝国大学法科卒。大浦兼武の娘兼子を妻とし、大浦が入閣時には秘書官を務める。1912 年以降、真宗信徒生命保険（その後共保生命保険と改称）の経営に当たり、久原房之助の資本・経営参加を得て経営を安定させた。
- (102) 住友家 15 代当主住友友純（1865 ～ 1926）男爵の邸宅。
- (103) 林一蔵（1867 ～ 1952）。1917 年 12 月から大阪府知事。
- (104) 仁田原重行（1862 ～ 1925）陸軍大将・軍事参議官。
- (105) 町田経宇（1865 ～ 1939）陸軍中将・第 4 師団長。
- (106) 村岡恒利（1865 ～ 1921）陸軍中将・大阪砲兵工廠堤理。この直後、陸軍技術本部長に異動となる。
- (107) 宇都宮太郎（1866 ～ 1922）陸軍中将・朝鮮駐劄軍司令官。この直後大將に進級する。
- (108) 宮里熊五郎陸軍主計監・第 4 師団經理部長。この後神田菊次郎の後任として関東軍經理部長に異動する。
- (109) 林二輔陸軍少将・歩兵第 33 旅団長。
- (110) 松川敏胤（1859 ～ 1928）陸軍大将・軍事参議官。
- (111) 1856 年大分県佐賀関生、1933 年別府で没。16 歳で長三州（大分県出身の勤王家、維新後、明治政府に仕え文部大丞などをつとめるが 1879 年に辞官、1833 ～ 1895）の教えを受ける。その後頭山満の知遇を得るなどのことあり、朝鮮で事業を興すが、失敗して帰郷後は別府で詩文と郷土史研究に過ごした（大分県立図書館からの回答による）。
- (112) 安河内麻吉（1873 ～ 1927）福岡県知事。
- (113) 斎藤行三（1882 ～ ?）東京帝大法科卒の内務官僚。
- (114) 師団（英語で division）のこと。18D は、第 18 師団（久留米）、6D は第 6 師団（熊本）である。GD は近衛師団。
- (115) 高山公通（1867 ～ 1940）陸軍中将・第 18 師団長。
- (116) 小池安之（1864 ～ 1931）陸軍中将・第 6 師団長。
- (117) 井口省吾（1855 ～ 1925）陸軍大将・軍事参議官。
- (118) 1872 年生、1925 年没。紀伊徳川家当主。実業家。貴族院議員。

- (119) 渡辺正夫（1888 ～ 1950）・蕃子夫妻であろう。蕃子は、立花の弟銑三郎の娘。砲兵将校の渡辺に嫁した。この時渡辺は陸軍大学校卒業式を控えていた。
- (120) 白仁武（1863 ～ 1941）。柳川藩主立花家家従白仁成功の長男。帝国大学法科卒。関東都督府民政長官などを経て、1918 年製鉄所長官に就いた#。
- (121) 梨本宮守正王。註 42 を参照。
- (122) 島川文八郎（1864 ～ 1921）陸軍技術本部長。大將に進級と同時に待命となった。
- (123) 久邇宮邦彦王（1873 ～ 1929）陸軍中将。近衛師団長から軍事参議官に異動した。
- (124) 大庭二郎（1864 ～ 1935）陸軍中将。この時ザバイカルに出兵中の第 3 師団長から軍事参議官に異動。
- (125) 内野辰次郎（1866 ～ 1920）陸軍中将・第 14 師団留守司令官。この時第 7 師団長に異動。
- (126) 市川堅太郎（1870 ～ 1925）陸軍中将・由良要塞司令官。この時第 15 師団長に異動。
- (127) 藤井幸槌（1864 ～ 1927）陸軍中将・第 7 師団長。この時近衛師団長に異動。
- (128) 尾野実信（1865 ～ 1946）陸軍中将・第 15 師団長。この時陸軍教育總監部本部長に異動。
- (129) 柴五郎（1860 ～ 1945）陸軍大將・東京衛戍総督。この時台湾軍司令官に異動。
- (130) 1883 年生。1907 年に東京高商を卒業して満鉄入社。1919 年運輸部庶務課長兼営業課長#。
- (131) 菅野尚一（1871 ～ 1953）陸軍中将・陸軍省軍務局長。
- (132) 田中政明（1864 ～ 1930）陸軍主計總監。
- (133) 1867 年生、1927 年没。満鉄副総裁、関東州民政長官、満鉄総裁を歴任し 1918 年鉄道院総裁に就いたが同年辞任。貴族院議員。
- (134) 陸軍将校。『陸軍現役将校同相当官実役停年名簿』（大正 7 年）には、陸軍歩兵少佐・台湾総督府副官とある。